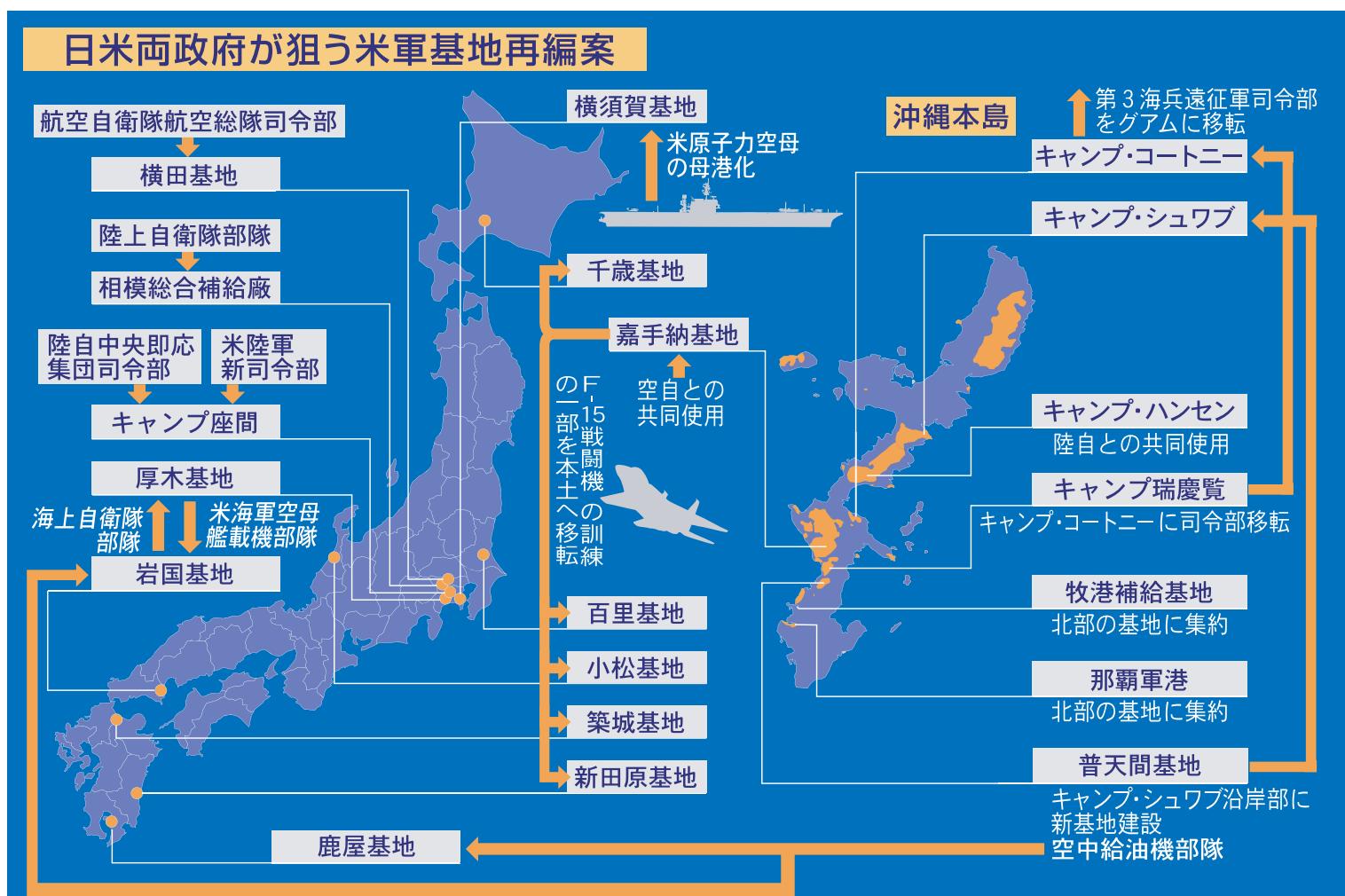


“異常な国家的な対米従属”のゆがみをただす

アメリカは戦後、日本中に米軍基地をつくりました。日米安保条約によって、基地は残されたままです。日本は、アメリカの軍事活動を応援する役割を担わされています。

「日米同盟」のためと、イラク戦争を支持し、自衛隊を派兵する、そして憲法まで変えようとする「きわめて異常な国家的な対米従属」。その根っこにあるのが日米安保条約です。



日米安保の範囲は、「極東」から「アジア・太平洋」に、そして地球規模に広げられました。安倍新政権は、「世界のなかの日米同盟」をひきつぎ、これまでの政府の解釈を変更し、集団的自衛権の行使（海外での武力行使）に踏み切ろうとしています。